

大腸がん検診のご案内

大腸がん検診は下記のいずれかを受診することができます。

■大腸ファイバー検診 ■便潜血検査

検査方法については、詳しくは裏面をご覧ください。

30歳以上(平成6年4月1日以前生まれ)の方が対象となります。



①大腸ファイバー検診の申し込み(実施期間:6月)

- お電話で申し込みの場合
健康ほけん課 健康づくり班
☎248-1275
お電話の際は「大腸ファイバー検診の申し込み」
とお伝えください。

- Webで申し込む場合
外封筒裏面の大腸ファイバー検診二次元
コードを読み込み、申し込みフォームを入力
してください。

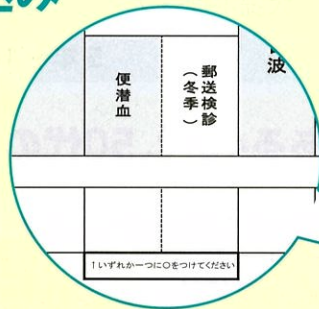
すでに申し込みが始まっています。
お早めに申し込みをお願いします。

申し込み期限
5月10日まで

②便潜血検査の申し込み

同封の検診(健診)申込書の
「便潜血」か「郵送検診」
どちらか一方に○印を
記入します。

※両方の受診はできません



令和6年度 合志市各種検診(健診)一括申込書

性別 ○ 男性 ○ 女性	提出期限
年齢 ○ 0歳 ○ 1歳 ○ 2歳 ○ 3歳 ○ 4歳 ○ 5歳 ○ 6歳 ○ 7歳 ○ 8歳 ○ 9歳 ○ 10歳 ○ 11歳 ○ 12歳 ○ 13歳 ○ 14歳 ○ 15歳 ○ 16歳 ○ 17歳 ○ 18歳 ○ 19歳 ○ 20歳 ○ 21歳 ○ 22歳 ○ 23歳 ○ 24歳 ○ 25歳 ○ 26歳 ○ 27歳 ○ 28歳 ○ 29歳 ○ 30歳 ○ 31歳 ○ 32歳 ○ 33歳 ○ 34歳 ○ 35歳 ○ 36歳 ○ 37歳 ○ 38歳 ○ 39歳 ○ 40歳 ○ 41歳 ○ 42歳 ○ 43歳 ○ 44歳 ○ 45歳 ○ 46歳 ○ 47歳 ○ 48歳 ○ 49歳 ○ 50歳 ○ 51歳 ○ 52歳 ○ 53歳 ○ 54歳 ○ 55歳 ○ 56歳 ○ 57歳 ○ 58歳 ○ 59歳 ○ 60歳 ○ 61歳 ○ 62歳 ○ 63歳 ○ 64歳 ○ 65歳 ○ 66歳 ○ 67歳 ○ 68歳 ○ 69歳 ○ 70歳 ○ 71歳 ○ 72歳 ○ 73歳 ○ 74歳 ○ 75歳 ○ 76歳 ○ 77歳 ○ 78歳 ○ 79歳 ○ 80歳 ○ 81歳 ○ 82歳 ○ 83歳 ○ 84歳 ○ 85歳 ○ 86歳 ○ 87歳 ○ 88歳 ○ 89歳 ○ 90歳 ○ 91歳 ○ 92歳 ○ 93歳 ○ 94歳 ○ 95歳 ○ 96歳 ○ 97歳 ○ 98歳 ○ 99歳 ○ 100歳	〒
<p>◆お申し込みの際は、健康づくり推進課(コールセンター)または各自治会館(窓口)へお申し込みください。</p> <p>◆お申し込みの際は、健康づくり推進課(コールセンター)または各自治会館(窓口)へお申し込みください。</p> <p>◆お申し込みの際は、健康づくり推進課(コールセンター)または各自治会館(窓口)へお申し込みください。</p> <p>◆お申し込みの際は、健康づくり推進課(コールセンター)または各自治会館(窓口)へお申し込みください。</p>	

大腸がん検診項目の「便潜血」欄に○印を記入する場合

9月・10月にがん複合検診で受診
(検診会場で検便提出)

8月に検診(健診)の日時などのお知らせと採便容器などの検診セット(他の検診セット含む)を送付します。指定された日時にご検診会場へ検便をご提出ください。

大腸がん検診項目の「郵送検診」欄に○印を記入する場合

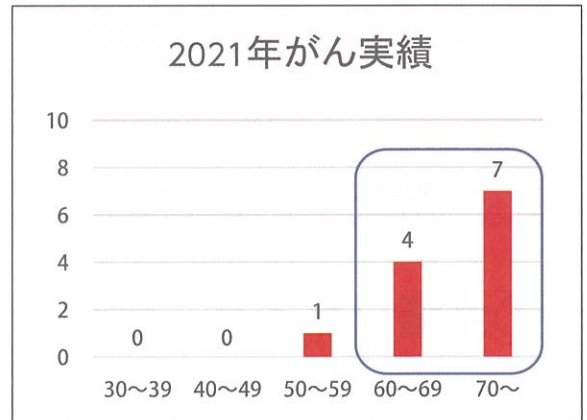
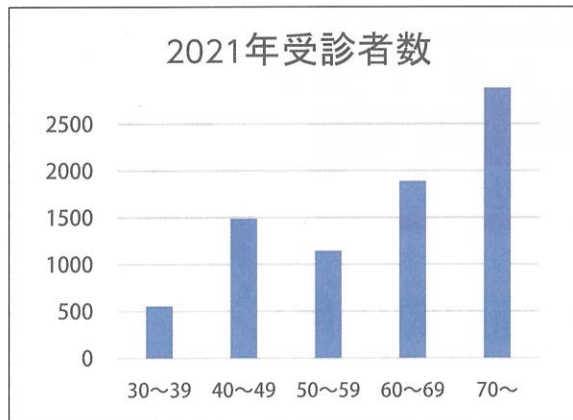
来年1月の郵送検診で受診
(冬季に郵送で検便提出)

来年1月に採便容器や検便を郵送するための返送用封筒(切手不要)などを同封した検診セット(大腸がん検診のみ)を送付します。郵送検診の受診期限内に、採便し郵送にて提出ください。

裏面もご覧ください

年に1回の大腸がん検診を!!

●2021年合志市大腸がん検診実績 7,963名

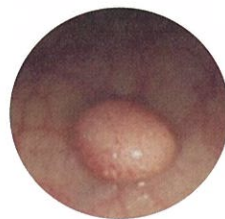


大腸がん検診を受診された方のうち、60代以上の方にがんが多く見つかっています。
がんを予防するためには、40代~50代からの検診が重要です!

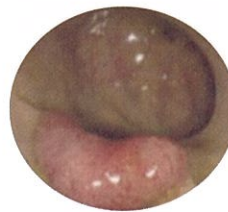
その理由は…

大腸がんの特徴

- 1 他のがんに比べ発育がゆっくり。
- 2 自覚症状が出にくい。
- 3 早期発見なら内視鏡で治療できる。



大腸ポリープ



大腸早期がん



大腸進行がん

5年~10年かけて進行

大腸がん予備軍の可能性のある40代、50代の積極的な受診が必要です。

自覚症状がないうちに大腸がん検診を!!

便潜血検査(食品衛生法で定められた便検査とは異なります)

- 便潜血検査は、大腸からの出血が便に混じっていないかどうかを調べ、大腸がんのリスクがある人をふるい分ける検査です。基準値よりも多く血液が混じっていた場合、判定は「陽性」となり、大腸全体の精密検査が必要となります。

大腸ファイバー検診(便潜血検査+内視鏡(S状結腸))

- 内視鏡(S状結腸)検査は、大腸がんの最も発症しやすい直腸とS状結腸(全体の約70%)を直接カメラで見えていく検査です。便潜血検査では発見しにくい出血の少ないポリープや早期がんの発見に威力を発揮します。(鎮静剤は使用しません)

お問い合わせ

合志市役所

健康ほけん課 健康づくり班

TEL096-248-1275

大腸肛門病センター高野病院

総合健診センター 検診課

TEL096-320-6510